

編集後記

本号には第3回めの「ゲルマン語の歴史」特集を組みました。また新機軸として、関西大学独逸文学会主催の研究発表会における講演・発表・報告の要旨を毎号掲載することとし、井上勉氏のコミュニケーション理論に関する発表をご紹介します。

論文8編、170ページを超す学会誌を今回も発行できたことは、喜ばしいかぎりです。これを可能にしているのは、言うまでもなく会員諸氏の旺盛な研究活動であり、特に若手の諸君の研鑽ぶりは、他のいかなる大学にも引けを取りません。近年、本学大学院で学んだ人、学びつつある人の多くは、所定の単位の2、3倍に相当する科目を学習し、満期退学後も聴講に通っています。更に学外の研究会に積極的に参加して他大学の教授からも指導を受け、同世代の人たちとの交流を深めています。これこそ「開かれた大学」という関西大学のスローガンの実践と言えるでしょう。

去る4月には、故・藤井啓行先生の後任に佐藤裕子氏をお迎えしました。氏は昭和56年に本学ドイツ文学科を卒業し、翌年から3年間ミュンヘン大学に留学、帰国して63年に大学院前期課程を修了、直ちにデュッセルドルフ大学の日本語担当専任講師に招聘され5年間に在職したという、ユニークな経歴の持ち主です。ドイツで鍛え上げた実力と強固な意志を、気負いも甘えもない爽やかな自然体に秘めた佐藤氏が、ゲルマニスティンとして教師として豊かに成長されることを、学科一同、心から期待しております。

芝田豊彦、福岡四郎

渡辺有而、D. シャウヴェッカー

独 逸 文 学 40

平成8年3月15日 発行

編集兼
発行者

関西大学独逸文学会

吹田市山手町3-3-35

関大独逸研究室内

電話・大阪(06)388-1121

内線5015

印刷所

ナニワ印刷株式会社

(非売品)

DIE DEUTSCHE LITERATUR

40

〈DIE GESCHICHTE DER GERMANISCHEN SPRACHEN 3〉

1 9 9 6

Gesellschaft für Germanistik
der Kansai Universität
Osaka Japan